

令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	国語	科目	現代文B	単位数	2	学年	2年	類型	カレッジコース
教科書	標準現代文B 改訂版			副教材	標準現代文B 学習課題集				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点					学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				①	②	③	④	⑤		
1 学期	4			課題テスト	○		○	○	◎	<p>学習のねらい</p> <p>1学期は、種類の異なる3つの文章を通じて、作者が伝えようとしていることを適切に読み取る力を身につけます。登場人物の心情や文章の背景を分析し、必要な情報を自ら選択し、内容を整理する方法を身につけます。</p> <p>2学期は読書活動を通じて、自らの内面を豊かにしていくことを学びます。作品に触れながら、自らの人生と重ね合わせ、これからの生き方について考えていきます。また、文章を通じて感じたことを適切な言葉で表現する力を養います。</p> <p>3学期は、小説を中心に、内容の適切な理解と、読み取ったことを、適切に表現することを学びます。</p> <p>学習の目標</p> <p>近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てます。</p>
		自己を見つめる	「私」という「自分」	具体的事例から筆者の主張を読み取る。				○	◎	
	5							○	◎	
		小説を読む(一)	調律師のるみ子さん	人物や環境の読解を通して小説を読む力を身につけさせる。	◎			○		
								○	◎	
6							○	◎		
	新しい発見	新しい地球観	文章の論理的な構成を捉え、筆者の主張を把握する。	◎			○			
								○ ◎		
7							○	◎		
	詩を味わう	永訣の朝・この世	詩についての感想文が書けるようにする。				◎	○		
2 学期	8			課題テスト	○		○	○	◎	
		言葉と生活	情けは人の・・・	自らの言語活動について考えさせる。				○	◎	
	9							○	◎	
								○	◎	
		言語活動	創作の楽しみ・短歌と俳句	作品を読み取り、互いの解釈について話し合わせる。		◎		○		
	10							○	◎	
小説を読む(二)		相棒	タイトルに込められた意味を考え、読解させる。				○	◎		
								○ ◎		
								○ ◎		
人間と文化		コミュニケーションの文化	文章全体の論理的な構成を把握させる。	◎			○			
11							○	◎		
							○	◎		
	期末考査						○	◎		
12	実用な文章	注連縄一つましく貧しく清楚な形	説明文における文章構成や論理展開、表現効果について考えさせる。				○	◎		
							○	◎		
								○ ◎		
3 学期	1			課題テスト	○		○	○	◎	
		小説を読む(三)	こころ	作中人物の行動と心理を読み取らせる。				○	◎	
								○	◎	
	2							○	◎	
								○	◎	
		鼻		小説の主題について話し合わせる。	◎			○		
	3							○	◎	
実用な文章		ノーベル賞VS. イグ・ノーベル賞	「実用」という概念について考えさせる。				○	◎		
								◎ ○		
							○ ◎			

※評価の観点 ①：関心・意欲・態度 ②：話す・聞く能力 ③：書く能力 ④：読む能力 ⑤：知識・理解

◆学習方法のポイント

- 読解力を身につけよう。
- 語彙力を増やそう。
- 自分の意見を言葉や文章で表現できるようになろう。

【授業】

- 講義形式の授業です。週2時間あります。
- 教科書を読み、指示語や心情などを読解します。また、キーワードなどを確認することで重要な部分を読みとれるようにします。
- 語句の意味、用法を確認し、語彙の知識を増やします。
- 作文を書いたり、話し合いをしたりして、自分の考えをまとめるとともに、他人の考えを聞き、自分の思考を深めます。

【家庭学習】

- 語句調べや、漢字の書き取り、人物について調べる。
- わからない語句は自分で辞書を引き、調べることが大切です。語彙力が増えると国語の力は必ずついてきます。
- 本を読んだり、新聞を読んだりすることを、毎日続けることが基礎的な読解力につながります。

【定期考査】

- 教科書を何度も読み返し、「どうして？」の疑問に答えられるようになろう。
- 問題集やワークなどの問題を繰り返し解こう。
- 漢字や国語常識の問題は日頃からコツコツ取り組んでおこう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解の五つの観点から評価します。ただし、定期考査を重視します。		
評価の規準	1 学期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③④⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等	
	2 学期	中間考査、期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③④⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等	
	3 学期	学年末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③④⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等	
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均	